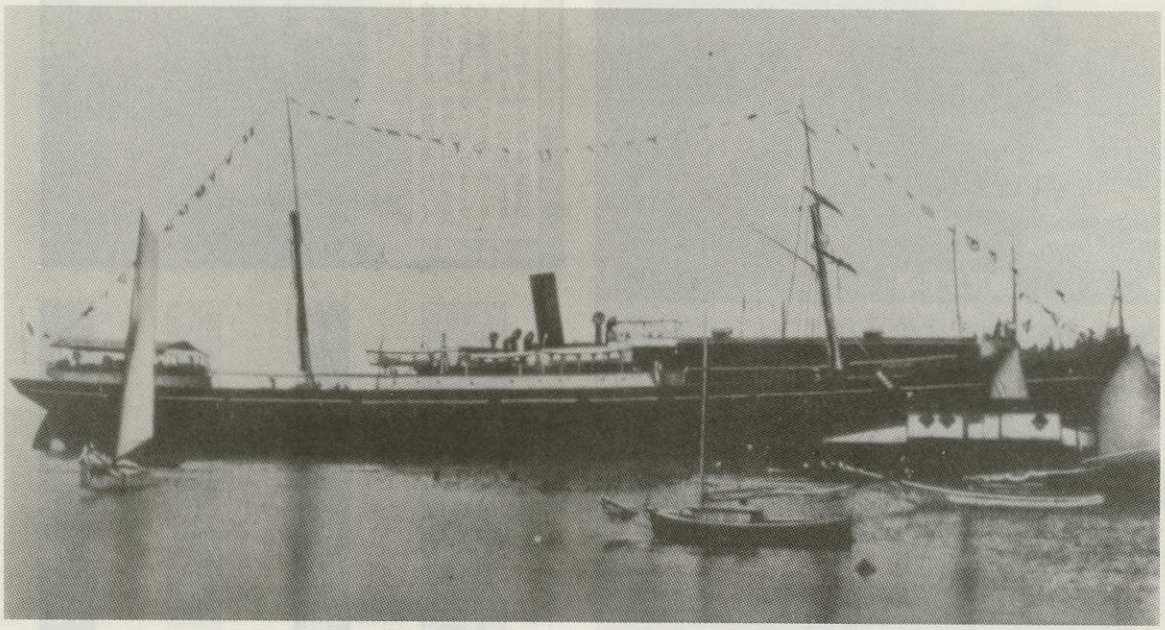
三　池　丸

《主要目》貨客船、日本郵船所属、3,312総トン、主機三連成レシプロ1基、出力1,550馬力、最高速力12.7ノット、1888年英国R・トンプソン＆サンズ社建造

遠洋航路を切り開いた鋼骨鉄皮構造の名船



鋼鉄交造船として英国で誕生

「木鉄交造船」と称する船が、十九世紀なかばの一時期造られた。外板や甲板などは木造とし、梁、肋骨、縦通材のような骨組みの一部に鉄材を用いた船のことである。船体が丈夫で軽く、載貨能力が大きいので、クリッパー帆船などに多く採用された。

有名なティークリッパーの「カティー・サーク」や「テーピング」も、木鉄交造船である。この時期には、鉄船も普及していたが、ティークリッパーが就航した東洋航路は、航海距離が長いうえ、寄港地にドックがないので、船底に付着する海草や海生物を除去することができない。そのため、とくに木鉄交造船が投入されたとされている。

欧米の造船史では、この後、鉄船の時代が相応の期間存在し、これに続いて、現代につながる鋼船の時代が到来するのだが、その過渡期に、鋼骨鉄皮構造の船が造られた。

つまり、木鉄交造船と同じ着想で、骨組みに新規材料の鋼材を採用し、外板に鉄材を用いた船のことである。製鋼技術が未熟な初期段階では、鋼の内部組織にムラがあり、わずかな衝撃でも亀裂が生じやすかったため、これを外板に使うのを避けたといわれている。

「鋼鉄交造船」あるいは「鋼骨鉄皮船」と呼

ばれるこの類いの船は、しかしながら、木鉄交造船の隻数ほどは建造されなかった。製鋼技術が急速に発達し、内部組織の均一な鋼板が大量に製造されるようになったからだ。百五十年をこえる英国キュナード社の長い歴史を眺めても、鋼鉄交造船は一隻もない。

ところが、明治のむかし、日本の海運界の老舗日本郵船の社船に、この鋼鉄交造船が一隻存在した。シアトル航路の第一船として名高い初代「三池丸」である。

シアトル航路の開業第一船に

「三池丸」は、一八八五（明治十八）年に設立された日本郵船が、船隊整備のため英国に発注新造した八隻のうちの一隻である。八隻の中では最大船であり、日本全体を見渡しても、三千三百総トンの「三池丸」を超える船はなかった。明治二十年前後の海運界の水準は、その程度だったのである。

日本商船隊のフラッグシップとなった「三池丸」は、一八九一（明治二十四）年から九四（同二十七）年にかけて、ハワイへの官約移民船として活躍した。官約移民というのは、日本とハワイ王国間の政府協約による移民のことで、「三池丸」はこの公的航海を五回行い、合計六千七百人の日本人農民をハワイの砂糖キビ農場へおくっている。

やがて日清戦争後、日本郵船は、欧州、シアトル、豪州への三大航路を開設した。第一船は、欧州が五千八百総トンの「土佐丸」、シアトルが「三池丸」、豪州が二千五百総トンの「山城丸」である。欧州航路の「土佐丸」が、購入船であるにもかかわらず、最も知名度が高いのは、船が大きかったからだ。

シアトル航路の開業第一船「三池丸」が神戸を出航したのは、一八九六（明治二十九）年八月一日であった。船客八人、移民客二百五十三人を乗せた同船は、横浜から、ホノルルを経て、同月三十一日にシアトルに入港した。移民客の大部分は、神戸、横浜からホノルルまでの乗船者だったと思われる。

続いて「山口丸」「金州丸」が就航。間もなく、使用船四隻による四週一便の定期となった。開業時の寄港地は、香港、下関（のち門司に変更）、神戸、横浜、ホノルル（臨時）、シアトルである。横浜～シアトル間の航海日数は約十七日。運賃（一八九八年当時）は、一等百三十五ドル、二等九十五ドル、三等二十八ドルだった。三等の二十八ドルは、当時の為替レートで五十六円ぐらいだ。

大歓迎されたシアトル初入港

不思議なのは、これほどの有名船であるにもかかわらず、「三池丸」の写真が皆無に近いことである。筆者が知っているのは、ここに掲げた逆光の不鮮明な着岸写真だけ。

しかしよく見ると、この写真は面白い。船は満艦飾で彩られ、フォアマストには星条旗が上がっている。船尾甲板室には天幕が張られ、なにやら来賓席のようでもある。全体に華やいだ感じのこの写真は、シアトル初入港の八月三十一日に撮られたもので、「三池丸」の一世一代の晴れ姿なのである。

入港の際、「三池丸」は二十一発の祝砲による歓迎を受けたという。郵船の社史には、歓迎プログラムが小さく掲載されている。豆粒のような活字をルーペで追うと、当日の港での行事のいくつかが読み取れる。消防ボートの出迎え（午後一時）、「三池丸」港内へ（一時半）、「三池丸」着岸、奏楽（二時）、郵船の代理店代表・在シアトル日本領事・シアトル市長・「三池丸」船長挨拶、奏楽（二時二十分）、レセプション（五時）、花火（八時）、等々である。

たぶん、くだんの写真は、この日の午後、入港後間もなく撮影されたものであろう。

日米交流の懸け橋となった「三池丸」は、一九三〇（昭和五）年に大阪で解体され、四十二年の船歴を閉じている。

（山田　廸生）